

「自殺予防」のため、この公開講座では、自を傷付け、自ら死を選ぼうとする人間の心理について、依存症やアディクションとの関係を「精神科医・北星学園大学教授の田辺等氏」に講演をいただいた。

前回と同様に、講師の巧みな話術に参加した誰もが引き込まれるような感じで、聞き入っていたようであった。また多くの質問にも、限りある時間の中で丁寧に答えていただき、それら質問の内容からも、関心度の高さが伺えた。

田辺講師は「薬物、ギャンブル、アルコールなどの依存症の人は、自殺したいと思ったことのある割合が高い」と指摘された。さらに「現実の自分と理想の間でずれが生じ、感情を処理できなくなると、心身の病気になったり、依存症になったりする。アルコールなどの依存症の人は、自殺したいと思ったことのある割合が高い」と話された。

「家族や知人がどのように関わるのが望ましいのか？」という問いに対して「家族・知人が一緒に考え、共に治癒するのだという意識を持つことが肝要であり、まずは基本的に本人の話をしっかり聴き、気持ちを受け止め、支えていくことが大切なこと」という応答に、まさにいのちの電話が基本にしている関わりなのだと感じた。

当日は、地元紙の“北海道新聞社が”取材に訪れ、記者自身が“来て講座を体験することができて良かった”と、述べるほど充実した内容に感じた。このことが紙面に載ることで、さらに、自殺予防としてのいのちの電話の活動・いのちの尊さを周知することに、大いに繋がることになるであろう。

※今回の開催は、2017年10月21日（土）の公開講座が大変好評であったことを受けて、再度同じ内容で実施したものです。

